

キックオフレポート案の取りまとめにあたって 補足・共有すべき事項

九州森林管理局

林業・木材産業の現状

近年、我が国の木材自給率は20%程度で低迷している。しかし、以前は「安い外材に高い国産材が負け」ていたものが、現在は「高い外材に安い国産材が負け」ており、状況が変化している。

森林を適切に管理経営し、森林の公益的機能を十分に発揮するには林業が業(なりわい)として成り立つことが必要であり、九州圏域のバランスのとれた発展のためにも国産材の復権に向けた取組が重要である。

図1 森林・林業と国民生活の関係の概念図

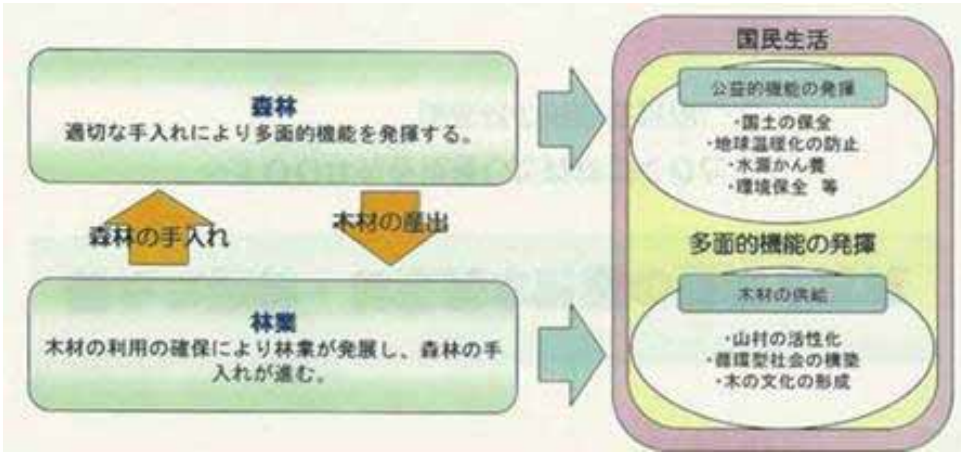
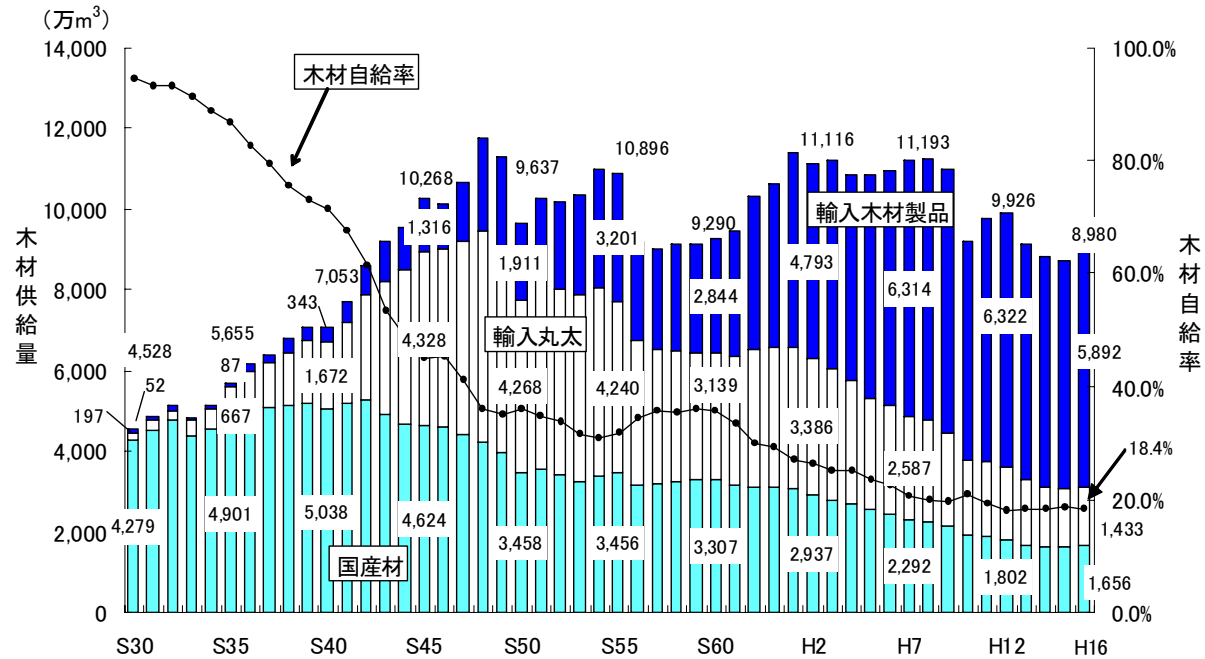


図2 主な丸太価格の推移



図3 木材(用材)の供給量の推移



資料：林野庁「木材需給表」

林業・木材産業を巡る状況の変化

このような状況は、我が国の森林所有が小規模・分散していることから木材の安定供給ができなかったこと、木材流通構造が複雑で多段階であったこと、住宅様式や住宅供給の担い手等の変化に木材産業の対応が遅れたこと等、旧来型の高コスト体質を改善できずにいたことが原因である。

また、中国等の経済発展による木材需要の増加から世界の木材需給構造が変化しており、世界的に木材需給がタイトになっていることも外材の値上がりの原因の一つであるが、これについては我が国から中国等への木材輸出の好機ともなりうる。

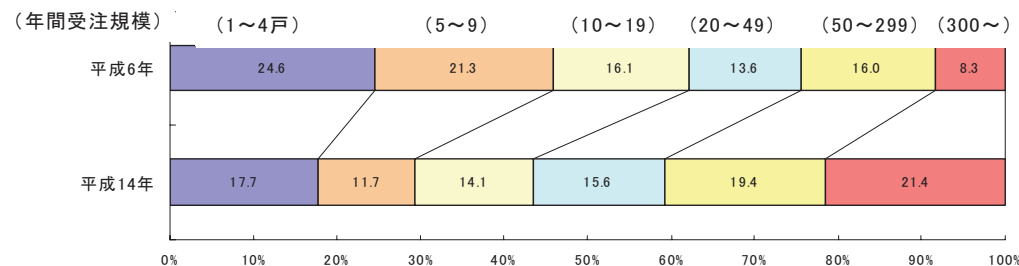
図1 素材生産費(主伐)の比較

	素材生産費 (千円/m ³)
スウェーデン	1.5
フィンランド	1.4
オーストリア	3.1~3.6
日本	7.0

図2 製材工場の規模別の製材コスト

年間素材入荷量	製材コスト(円/m ³)
~1万m ³	9,900程度
~3万m ³	7,000程度
~5万m ³	4,600程度
~10万m ³	3,400程度

図4 木造軸組住宅生産者の規模別の戸建て住宅供給戸数の割合

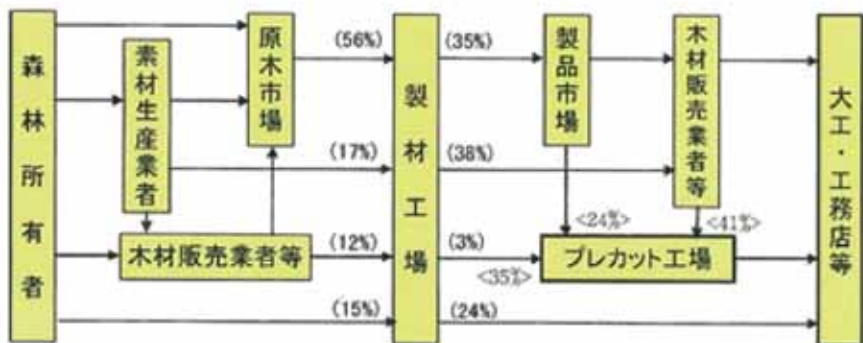


資料：(財)林産総合調査研究所「林政総研レポートNo.64」(2003年3月)、林野庁「素材生産費等調査報告書」
注：為替レートは1SEK=17円、1ユーロ=120円。スウェーデン、フィンランドは1996年、オーストリア2002年、日本(樹種：スギ)は2003年の数値。

資料：林野庁業務資料
注：「~10万m³」のコストは5万m³×2シフトの場合である。

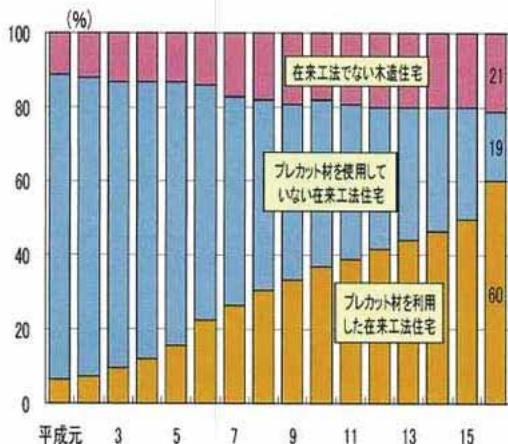
資料：住宅金融公庫融資物件の戸建住宅の抽出調査に基づき推計

図3 国産材の流通構造



資料：農林水産省「木材流通構造調査報告書(平成13年)」を基に作成
注：1) ()は製材工場の入・出荷先別割合
2) < >はプレカット工場の入荷先別割合

図5 プレカット材を利用した在来工法住宅シェアの推移



資料：全国木造住宅機械プレカット協会調べ

図6 大手木造軸組工法の住宅会社の主要構造材等の使用状況

樹種	H10	H11	H12	H13	H14	H15	H16
集成材	60.8	66.2	60.2	71.5	71.9	63.6	66.1
柱							
ヒノキ	10.9	14.0	20.4	18.0	15.0	18.8	14.8
スギ	17.6	10.6	10.1	3.9	9.6	14.7	14.9
その他	10.6	9.1	9.3	6.7	3.5	2.8	4.2
横荷材							
ベイマツ	59.0	62.6	52.8	38.7	33.5	41.6	19.2
集成材	27.4	29.0	36.4	56.3	62.4	55.8	70.2
その他	13.6	8.5	10.8	5.1	4.1	2.6	10.6
土台							
米ツガ	72.1	54.4	37.5	36.0	33.3	23.0	15.4
米ヒバ	11.2	19.5	17.8	23.1	18.3	15.1	17.7
ヒノキ	11.3	9.3	19.0	13.1	13.8	18.9	24.0
集成材	0.2	6.0	12.9	15.9	24.8	28.9	30.2
その他	5.1	10.7	12.8	11.9	9.8	14.0	12.7

資料：木材建材ウイクリー No.1556 2005年10月10日号

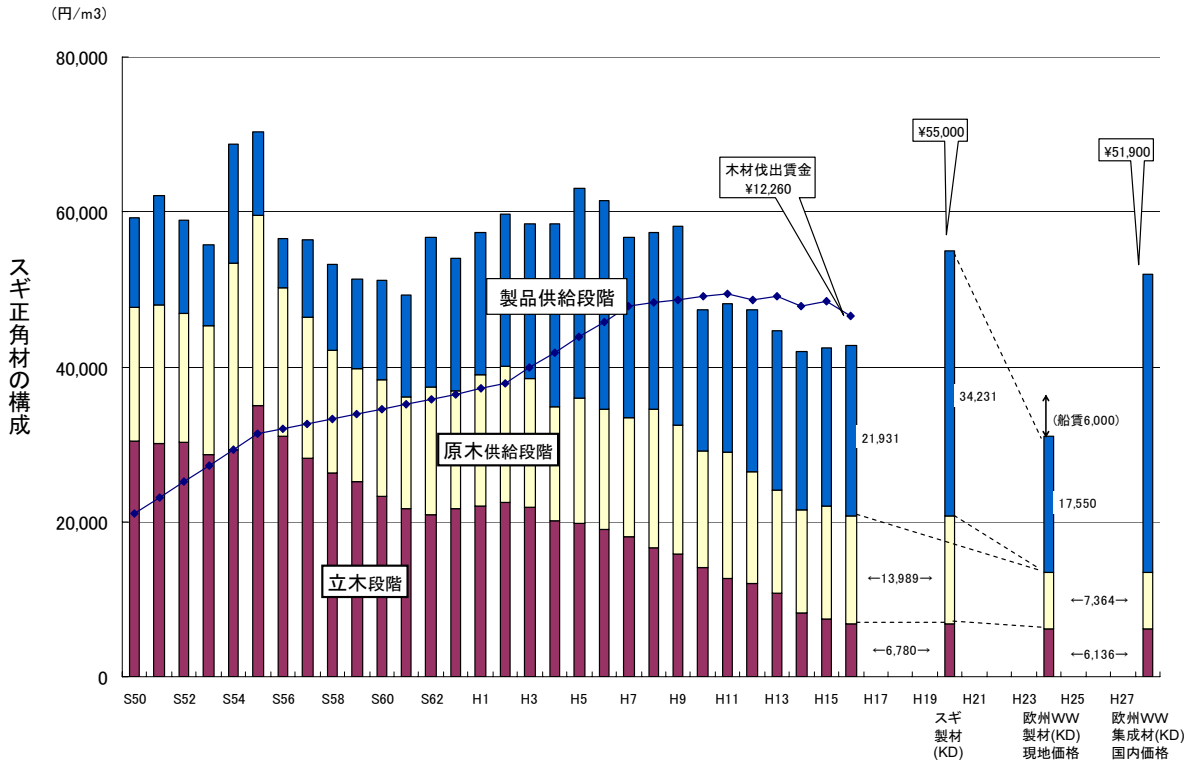
図7 林業算出額(木材生産)

単位:億円、万m³

	昭和55年	平成15年	増減	H15/S55
林業算出額	9,674	2,332	△ 7,342	24%
(参考) 国産材供給量	3,696	1,696	△ 2,000	46%

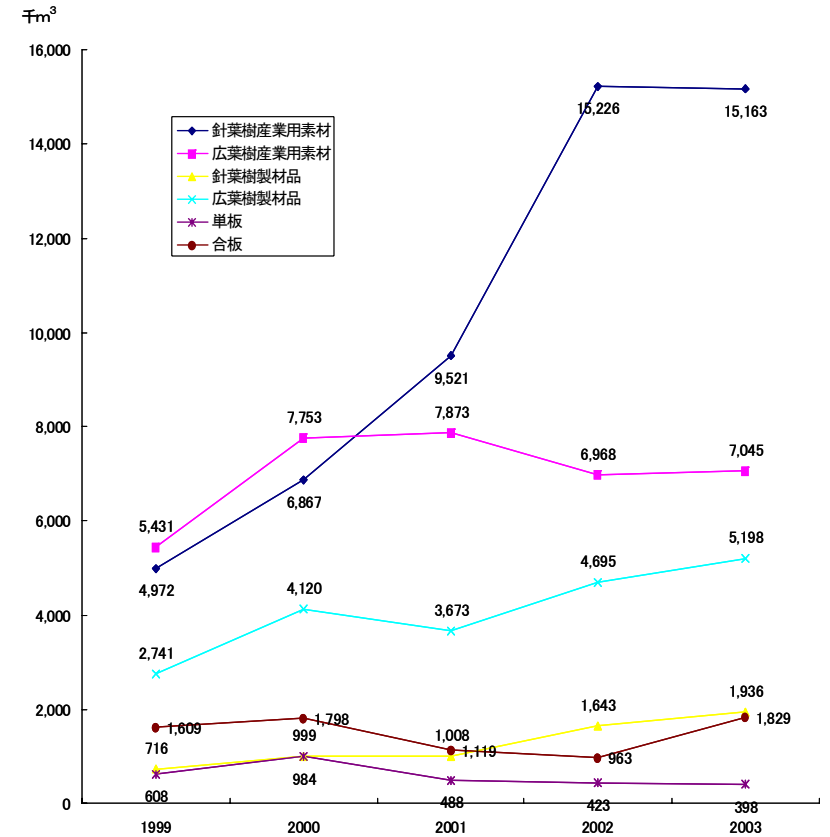
資料:農林水産省「生産林業所得統計報告書」、林野庁業務資料

図8 スギ正角材1m³当たり価格の構成(未定稿)



資料:「山林素地及び山元立木価格調」(日本不動産研究所)、「木材価格」(農林水産省)、「林業労働者職種別賃金調査」(厚生労働省)
注:立木段階は、スギの山元立木価格、原木供給段階は、スギ中丸太価格と山元立木価格の差額とした。
製品供給段階は、スギ正角材価格とスギ中丸太価格の差額とした。
なお、山元立木価格とスギ中丸太価格は、歩止り65%として製品1m³を製造するのに必要な量(約1.54m³)の価格で積算している。
欧州現地価格は、1ユーロ=135円で換算。

図9 中国の木材輸入量の推移

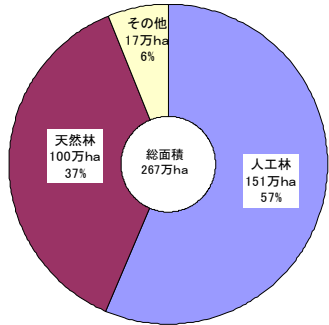


資料:林野庁 森林・林業統計要覧(元資料:FAO forest yearbook)

九州の森林資源

九州は森林の57%を人工林が占めている人工林地帯であり、人工林の蓄積が40年前の4.6倍に増加している。一方で、九州での現在の針葉樹生産量は人工林の生長量の約3割だけでしかなく資源的には十分な余力がある。むしろ人工林の年齢構成が7～10年齢に偏っていることから、間伐を一層進める必要がある。

図1 九州の森林面積



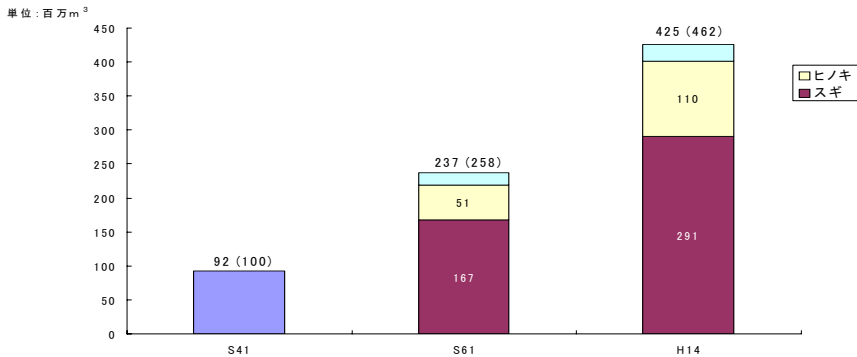
資料：森林資源現況表(平成14年3月31日現在)

図3 九州における木材生産量と生長量・蓄積

	数量	割合
針葉樹生産量	328万m ³	—
人工林生長量	1,042万m ³	31%
うちスギ	631万m ³	52%
人工林蓄積	4億2,437万m ³	0.8%
うちスギ	2億9,080万m ³	1.1%

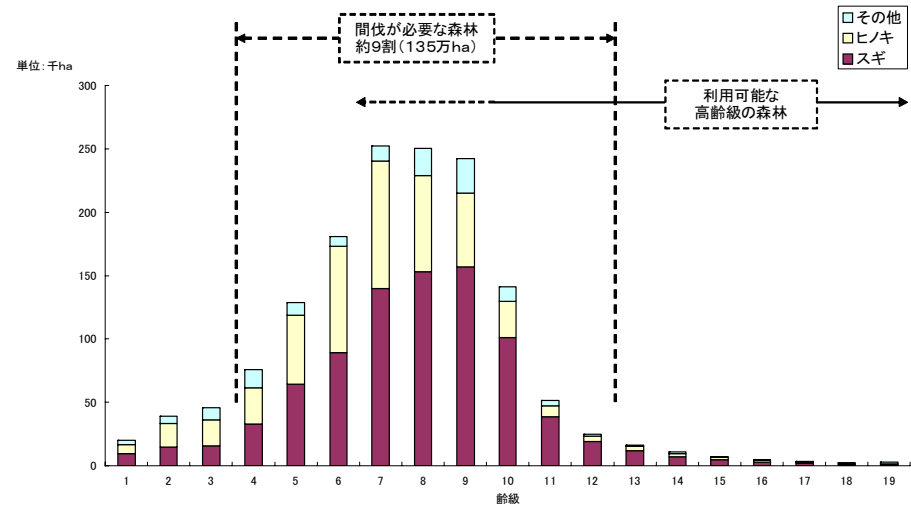
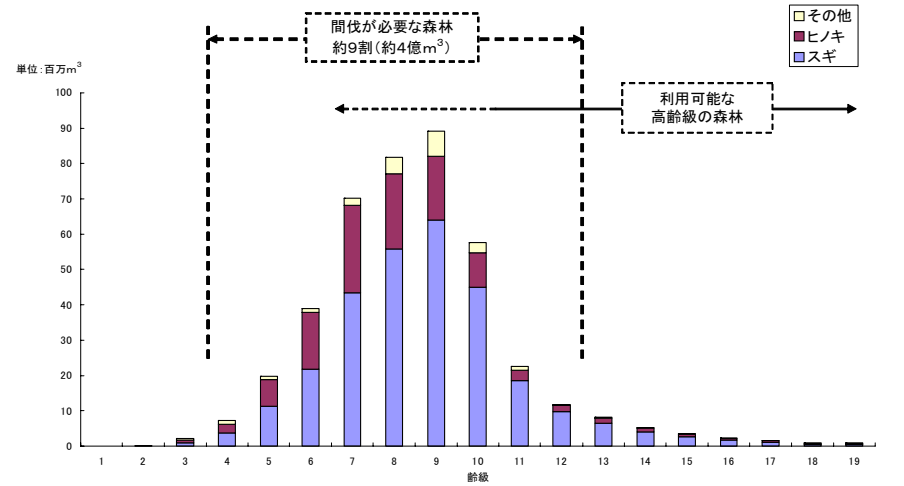
資料：森林資源現況表(平成14年3月31日現在)、平成17年木材需給報告書
注：割合はそれぞれの生長量、蓄積に対する針葉樹生産量の割合。

図2 九州における人工林蓄積の推移



資料：各年3月31日現在の森林資源現況表
注：1. S41年は内訳なし。

図4 九州の人工林の年齢配置(蓄積(上)・面積(下))



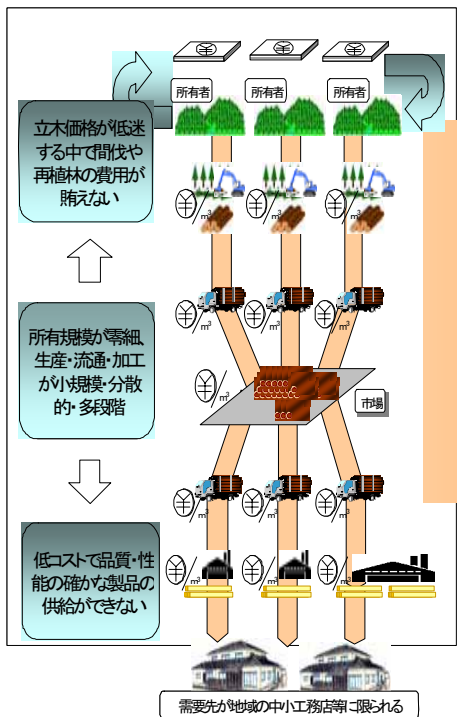
資料：森林資源現況表(平成14年3月31日現在)

九州におけるトータルコスト削減の取組

九州は国産材針葉樹生産量の約4分の1、人工林蓄積の約5分の1のシェアを持つ我が国の木材供給基地である。また、人工林資源が他地域に先んじて充実しつつあることから、大規模製材工場の出現等生産・流通・加工のあらゆる段階でトータルコスト削減に向けた先進的な取組が行われている。

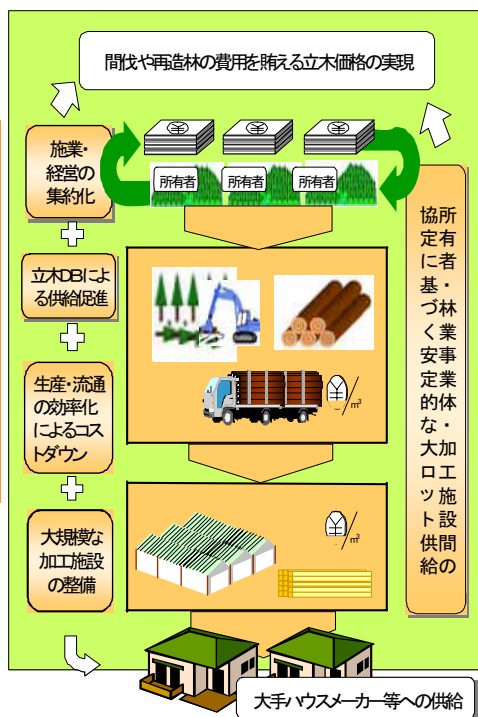
これまでの林業・木材産業

我が国の林業・木材産業は、森林の所有規模が零細で生産・流通・加工が小規模・分散的・多段階。ハウスメーカー等のニーズに応じた製品の安定供給ができず、需要が低迷。その結果林業家への還元ができず、森林の手入れが進まない。



新生産システム

モデル地域において、川上から川下までの合意形成に基づき、施業・経営の集約化、協定取引、生産・流通・加工のコストダウンによりハウスメーカー等のニーズに応じた安定供給を実現。需要の拡大を通じて林業家への還元を増やし、森林の手入れを促進。



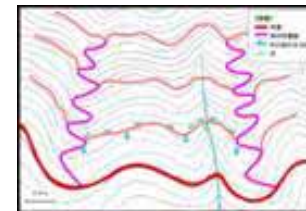
山元でのコスト削減の取組



ロングリーチハーベスタ



列状間伐



壊れにくい低コスト路網

九州の大規模製材工場等の例



佐賀県の大規模ラミナ工場



鹿児島県の製材工場



佐賀県の大規模集成材工場



熊本県の合板工場